

りっぷる

エスコープ大阪機関紙

第252号

1

24. .29

C o n t e n t s

表紙

・わかりやすい遺伝子組み換え表示を望みます！

P3

・活動報告 ライフプラン講座／余剰野菜取り組み／「コーヒー焙煎ワークショップ 珈琲工房まめ福」生産者交流会
・「おぜいの私」がつくるエスコープ大阪

P2

・「遺伝子組み換えでない」表示が消えていく…

P4

・次世代生産者紹介「菜食ファーム」
・理事会報告
・おたよりネット ・お悔やみ
・編集後記

わかりやすい 遺伝子組み換え表示を望みます！

2023年4月より食品表示法改定で遺伝子組み換えに関する任意表示制度が変更されました。遺伝子組み換え食品を食べたくない消費者にとっては、知る権利・選ぶ権利が脅かされる、わかりにくい表示となりました。今回は、私たちの消費材『針江げんき米』の生産者で、*「たねと食とひと@フォーラム」の運営委員代表でもある石津大輔さんに遺伝子組み換え表示制度改定についてお話を伺いました。

(聞き手:消費担当常務理事 山路 登葉)



「針江げんき米栽培グループ」生産者
「たねと食とひと@フォーラム」
運営委員代表

石津 大輔 さん

人が管理できない 遺伝子操作技術

山路 遺伝子組み換え技術や作物について生産者としてどのようにお考えですか？

石津 この夏に訪問した山形県では従来の焼き畑農法で在来品種が今までと同じ様に作れなくなっている事例を聞きました。今まで作れていた作物が作れなくなるなど、気候に合った品種改良や栽培方法の工夫が必要になってきていると感じています。昨年、「滋賀県農業技術振興センター」で品種改良された「きらみずき」という米を試験栽培しました。雑草に強く、品質も良く、作りやすい品種だと、作ってみて感じました。

遺伝子組み換え技術によって作られた動植物は、自然界で交雑しても回収不能で「元に戻せない」点で大変危険だと思っています。今はまだ明らかになっていない遺伝子操作による問題が後々わかった場合でも回収できず、次の世代に問題のある種を残すことにつながります。遺伝子組み換え技術に頼る前に、他にもっとできることがあると考えています。

新しくなった表示制度の問題点とは？

山路 昨年春に改定された遺伝子組み換え

に関する食品ラベルの任意表示についてどのようにお考えですか。

石津 旧制度下では遺伝子組み換え作物の意図せざる混入率が「5%以下」であれば、「遺伝子組み換えでない」と任意表示できましたが、「その基準では緩すぎるのではないか」とかねてから思っていました。厳格化は喜ばしいことですが、生産や流通現場の実態に合わず、分別生産流通管理の取り組みが後退することを懸念しています。

遺伝子組み換え作物が「不検出」の場合のみ「遺伝子組み換えでない」と表示できるといいう、「0か100か」のようなルールではなく、実際に流通しているものからサンプリングして統計を取り、意図せざる混入率を割り出すなど、実態に即した基準であるべきだったと思います。

消費者に分かりやすい表示を求めているこう！

山路 昨年夏、生活クラブは「遺伝子組み換えでない」表示の市場調査を実施し、エスコープ大阪でも300枚以上の調査シートを組合員から回収しました。

石津 市場調査は消費者が食品表示に関心を持つ良いきっかけになったと思います。今回の改定で、これまで「遺伝子組み換えでない」と表示できていた食品から「遺伝子組み換え」や「でない」という言葉がなくなってしまうことを懸念しています。より厳しい基準を求めるあまり、「分別生産流通管理済み」などとわかりにくい表示になってしまったのではないのでしょうか。

2年後、3年後、そして10年後のことを考えると、遺伝子組み換え技術や作物のことが消費者の意識から消えてしまうのではないかと危惧しています。消費者に認知・評価されないのであれば、手間とコストがかかる非遺伝子組み換え作物の分別生産流通管理に取り組まない事業者も出てくる可能性もあります。

アメリカではNon-GMO(非遺伝子組み換え作物)のロゴが普及しています。日本でも『有機JAS認証』などを活用して非遺伝子組み換え作物の存在を発信していく必要があっても良いのではないのでしょうか。

山路 市場調査に参加した組合員から、「表示が分かりにくくなった」という声がありました。遺伝子組み換え食品に反対する消費者にとって、まずは遺伝子組み換えであるかどうかをひと目で分かる食品表示が必要です。食品表示に関心を持つことが、消費者の知る権利・選ぶ権利を守ることにつながることをこれからも多くの組合員に伝えていきたいと思っています。

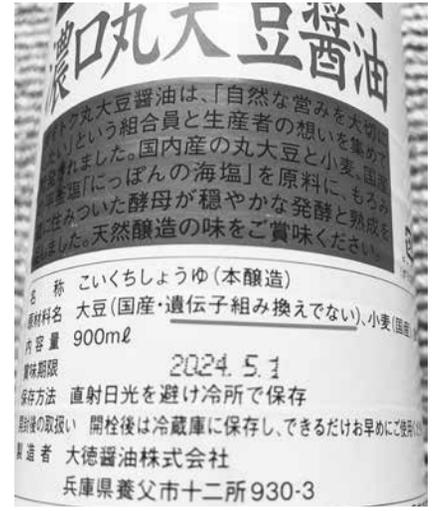
※たねと食とひと@フォーラム…

「たね」という観点から、食と農、社会における課題への理解を深める活動を展開している非営利団体。私たちの社会が環境と調和した持続可能なものであり続けること、今ある多様性が未来世代へ確実に受け継がれていくことが重要と考え、人と人が関わり、地域の中につながりを育み、いのちが尊重される社会の実現をめざしています。エスコープ大阪とは、2015年よりゲノム編集・遺伝子組み換え反対運動を協力してすすめています。



「遺伝子組み換えでない」 表示が消えていく…

消費者庁は2023年4月1日に食品表示法を改定し、遺伝子組み換えに関する任意表示制度も変更しました。企業による種子独占を招き、また生物の多様性を破壊する遺伝子操作をおこなった食物、飼料、添加物を生活クラブは認めていません。やむを得ず使用する場合は組合員に情報を公開するという方針をとっていますが、この度の食品表示の改定で、多くの食品ラベルから「遺伝子組み換え」や「でない」という文字が消える事態となっており、正確な情報を増やすための改定であったはずが、むしろ消費者が判断するための情報が減ったという状況になっています。



消費材の表示

▼2023年4月1日からの新制度

	表示
分別生産流通管理をして、意図せざる混入率を5%以下に抑えている大豆及びとうもろこし並びにそれらを原材料とする加工食品	適切に分別生産流通管理された旨の表示が可能 <表示例> 「原材料に使用しているとうもろこしは、遺伝子組み換えの混入を防ぐため分別流通管理を行っています」 「大豆(分別生産流通管理済み)」 「大豆(遺伝子組み換え混入防止管理済)」等
分別生産流通管理をして、遺伝子組み換えの混入がないと認められる大豆及びとうもろこし並びにそれらを原材料とする加工食品	「遺伝子組み換えでない」 「非遺伝子組み換え」等の表示が可能

○名称: 充填絹ごし豆腐○原材料名: 大豆(カナダ産)(分別生産流通管理済み) / 凝固剤(粗製海水塩化マグネシウム(にがり))、消泡剤(グリセリン脂肪酸エステル、炭酸カルシウム、レシチン、炭酸マグネシウム)○内容量: 150g×3個○賞味期限: 天面記載○保存方法: 要冷蔵(1℃~10℃)○製造者:

市販品の表示

消費者にとってわかりにくい食品表示

食品表示法の旧制度においては遺伝子組み換えに関する食品表示は、「意図せざる混入率5%以下」であれば、「遺伝子組み換えでない」と任意表示ができました。

新制度では遺伝子組み換え表示の基準が改定され、「遺伝子組み換えでない」と表示できるのは、「組み換えDNA(遺伝子)が検出できない場合に限定され、表示基準が厳格化されました。また旧制度下の「遺伝子組み換えでない」という表示から、「分別生産流通管理済み」などに変更された新制度の表示は、消費者

にとつてわかりにくい内容となっています。新制度の食品表示では、遺伝子組み換え技術や作物への消費者の関心が、次第に薄れていくかもしれないという課題があります。

「遺伝子組み換えでない」表示がなくなる問題点とは？

新制度では、「遺伝子組み換えでない」表示の代わりに「分別生産流通管理していることがわかるよう表記できる」としていますが、「遺伝子組み換えでない」表示ができないのであれば、「コストのかかる分別生産流通管理をやめる事業者が今後出てくる」ことが考えられます。その結果、分別生産流通管理システム自体

が使われなくなり、なくなる可能性もあります。

特にトウモロコシは風媒により交雑しやすい作物です。遺伝子組み換えトウモロコシは一粒に何種類もの遺伝子組み換えDNAが入っているため、どのように分別管理して輸送したとしても微量混入は免れません。トウモロコシから作られる糖類(ブドウ糖など)やクエン酸などの食品添加物は、幅広い範囲で食品に使われており、全く混入がない場合しか「遺伝子組み換えでない」という表示ができなくなると、遺伝子組み換えトウモロコシが今後さらに市場に流通することも考えられます。これまで「遺伝子組み換えでない」表示を頼りに選んで避けてきた消費者も、遺伝子組み換えトウモロコシと気づかずに食べてしまうかもしれません。

「遺伝子組み換えでない」表示市場調査を実施しました！

市民が「遺伝子組み換えやゲノム編集食品を気にしていること」や「食品表示が消費者の知る権利として大切である」ことを国や事業者に対して示すことを目的に、生活クラブでは「遺伝子組み換えでない」表示に関する市場調査を、昨年の夏に一齐に実施しました。エスコープ大阪でも『環境委員会ニュース』で市場調査の実施を組合員に呼びかけました。8月の1カ月間を調査期間として実施し、338枚の調査シートを回収することができました。

また市場調査に先立ち、「たねと食とひと@フォーラム」から講師2名を迎えて7月に「事前学習会」を開催し、組合員18名が参加しました。事前学習会や市



事前学習会

場調査活動に多くの組合員の参加があり、食品表示や食の安心・安全に対する組合員の関心の高さがうかがわれました。

市場調査に参加した組合員からは、「表示が変わったことを知らなかった」「分別流通管理済みという表示では何のことか分からなかった」「原材料名が丸大豆(カナダ産)とあったので、遺伝子組み換えかも？」などの感想がありました。市場調査に参加することが、食や食品表示に関心を持つきっかけとなりました。

「食べるカタログ」や消費材のラベルにおいて、生活クラブでは遺伝子組み換えに関する情報を「コマーク」や「遺伝子組み換え」等の言葉を用いて、分かりやすく組合員に情報開示しています。遺伝子組み換えやゲノム編集といった種(しゅ)の保存、種(たね)の保存を脅かす技術や、企業による種の独占、食糧の独占を招く事態にもなりかねない遺伝子組み換え技術や作物に反対する活動をこれからもすすめ、次世代に「食の安心・安全」をつないでいきます。

堺市街地地域
ライフプラン講座
 10月25日(水)
 堺市立西文化会館
 ・ウェスティ
 (堺市西区)

堺市市街地地域理事
 川 弘美

「ゆるやかな老い支度」講座を
 開催しました。



した不安の原因を明確にすると良いそうです。佐藤さんからは「老い支度に必要な資金を大まかな家計収支表に書き込んで見えるようにし、『ねんきん定期使』をチェックします。そして、金融資産を把握して、いざという時に、どの金融資産を使うのかを家族で話し合います。自立した生活ができなくなる前に自分らしい暮らし方（住まい方や介護の利用方法など）を考えておくことも大事です」と教えていただきました。

現代の大きな課題のひとつとして長寿化が言われています。日本人の平均寿命は男性が81・05歳、女性が87・09歳ですが、介護に頼らず自立して暮らすことができる「健康寿命」との差は、男性10・63年、女性13・47年もあるのです。人生の最後に何らかの介護やサポートを必要とする期間が来ます。

老後に必要なものとして、「お金」「住まい」「からだ」「生きがい」があります。「お金」の準備をするためには、漠然と

介護について相談したいときは、市区町村の高齢者福祉課や地域包括支援センター(ESコープ大阪サポートセンター)(SOS)があります。共済や保険に加入して自分や家族が病気になった時に備えたり、ESコープ大阪の組合員同士のたすけあいのしくみ「エッコロ制度」を利用することで近くに住む組合員とたすけあいのつながりをつくったり、他人にケアしてもらうことに慣れておいたり、歳をとっても社会参加して「生きがい」を持つことが必要ということを学びました。

大阪市南・中河内地域
「コーヒー焙煎ワーカーズ 珈琲工房まめ福」
 生産者交流会
 10月25日(水)
 住吉区民センター
 (大阪市住吉区)

大阪市南・中河内地域委員
 平尾 加織

「まめ福」生産者交流会
 熱気あふれる



今回は、それぞれの食べ物に合うコーヒーも紹介しました。「グアテマラ」は華やかな味わいで、フルーツケーキに合うそう、今回は、パンケーキのフルーツ添えと共に試飲しました。また、酸味が強くフルーティな「ペルー」は、なんとカレーとベストマッチ。「コーヒー単体で飲んだときと印象がまったく違う！」と、驚きの声が上がっていました。

その後は、コーヒーの淹れ方講座をおこないました。参加された組合員は、普段から「まめ福」のコーヒーを愛飲しておられる方が多く、大変関心が高い様子でした。実演中はたくさん質問が出ましたが、まめ福の皆さんにひとつひとつ丁寧に答えていただけました。「グアテマラ」「東ティモール」「ペルー」の3種類のコーヒーを試飲した組合員からは、まめ福の方たちも思わずうなる、鋭いコメントが出てい

まめ福の生産者交流会を開催しました。地域委員のあいさつの後、「まめ福」副代表の酒井由美子さんから、コーヒー豆の産地の様子について話していただきました。「まめ福」のコーヒーは、生産者から搾取する一般的な流通とは違い、生産者の生活の向上に貢献していることがわかりました。

焙煎体験では、豆を小鍋で炒る作業を一人ひとり体験しました。同じように焙煎したはずなのに、班ごとに味わいが異なり、焙煎作業の難しさを感じることができました。大変盛りだくさんな内容で、とても充実した時間となりました。人の集まる機会が増えるこの時期、今回の内容が特に役に立ちそうです。おいしさに加えて「まめ福」のコーヒーを、もつと利用していきたいと思

『旬菜セット』の生産者
 大谷さんの畑で収穫体験

は思っていたよりずっとと広く、『旬



菜セット』に入っている野菜が実際に育っているところを見て、感慨深く感じました。

初めに、河内長野・大阪狭山地域委員会のチャレンジ野菜として組合員の提案で栽培を始めた茎ブロッコリーの畑で、食べ頃に育ったものをハサミで切って収穫しました。

「生でもおいしいよ」と小学生の参加者に渡してくださり、食べてみると「お

いしい!」。減農薬で作られているから、生でも安心して食べることができ

が発生。出荷できないものが大量に出

南河内地域
余剰野菜取り組み

11月23日(木)
 菜食ファーム
 大谷さんの畑
 (河内長野市)

南河内地域理事 山田 恵子

組合員3名、子ども2名、地域理事、地域委員、職員の計8名で、大谷さんの畑を訪問しました。85歳と84歳の

私たちを出迎えてくださいました。畑

「生でもおいしいよ」と小学生の参加者に渡してくださり、食べてみると「お

いしい!」。減農薬で作られているから、生でも安心して食べることができ

が発生。出荷できないものが大量に出

「おおぜいの私」がつくるエスコープ大阪

vol.17 『サークル活動支援』

生活協同組合であるエスコープ大阪の組織運営について、隔月で連載します。

●組合員と市民の活動支援

エスコープ大阪は、協同組合として地域住民として社会や生活の課題について解決をめざし暮らしを豊かにするために在ります。組合員だけでは、課題を解決できないことがほとんどで、地域住民の視点で考え、いろんなことや人とつながっていくことも大切です。

グループ班で組合員同士が交流する場をひろげてきましたが、現在は個人配達が大半を占め、そのような機会が少なくなっています。組合員間の話し合いの場を豊かにし、気づき合いの場をつくることを目的にサークル活動の支援もおこなっています。

組合員5名以上で結成でき、構成員の3/4が組合員であれば、組合員外がメンバーになることも可能です。活動費として上期・下期で各6,000円の支給などを支援し

ています。現在登録しているサークルは7団体となり減少傾向です。今後、登録するサークルの募集もおこなっていきます。

●活動紹介:
 リメイクサークル「ファッションショー」

登録しているサークルの一つである「リメイクサークル」は、現在8人のメンバーで、着なくなった着物を洋服や小物に仕立て直してリメイクするサークルです。年に1回、ファッションショーもおこない、お披露目の機会



しました。大勢の方に集まっていたいて、たくさんの拍手ももらって、みんなが元気で、続けて来て良かったと心から思いました。ありがとうございました。」とおっしゃっていました。



としています。活動仲間や友人知人、家族がつどい、みんなの交流の機会にもなっています。

今年はコロナ禍の影響で4年ぶりの開催となり、メンバーや参加者の感慨もひとしお。代表の奥田澄江さんは、「20年前、この場所で第1回を開催



これからもサークル支援を継続し、組合員同士や地域住民のつながりを広げていきます。

第7回
理事会報告 <12月6日>

【10月度決算報告】

- 供給高 2億2,028万円(前年同月比98.9%)
*配達2日少ない
- 組合員数 18,640名(前月比△14名)
- 一人当たりの出資金 91,746円

【11月の放射能検査結果】

11月は連合消費材613検体の放射能検査を実施しました。エスコープ大阪供給分で生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【協議事項】

- ①エスコープ大阪第7次中期計画(案)
- ②2024年度エスコープ大阪の方針案
- ③エスコープまつり2024年度開催について
- ④2024年総代会までのスケジュール
- ⑤2023年度「よやくる みかん」取り組みまとめに向けて
- ⑥生活クラブ福祉事業基金への申請

【報告承認事項】

- ①連合理事会「GPR(供給剰余率)の再設計」への意見
- ②堺市街地地域パートナーへの対応について

お悔やみ

日本の有機農業運動の草分けの一人で、エスコープ大阪にも多くのご示唆をいただいた「農事組合法人 上和田有機米生産組合」(山形県)顧問、星寛治さんが2023年12月7日にご逝去なされました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

昨年11月末に開催された「高畑町有機農業運動50周年 記念シンポジウム」を見届けたかのように、12月7日に星寛治さんが亡くなりました。有機農業の先駆者というだけでなく、詩人でもあり、教育者でもあり、人間の生き方や社会のあり方も発信し続けてこられました。

りっぶる255号では、星寛治さんを偲び、星さんがこれまで発信されてきたことを紹介したいと思います。(Y)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

https://s-osaka.seikatsuclub.coop/



次世代生産者紹介

いっしょに創る未来

堺市・和泉市・河内長野市・大阪市

菜食ファーム 中村 洋平さん 近岡 資明さん
今野 裕光さん

中村 洋平さん 近岡 資明さん 今野 裕光さん

私たちは、以前から生産者と組合員が直接顔を合わせて議論し、いっしょに消費材を作り、運動をすすめてきましたが、生協設立から50年以上経ち、世代変わりしている生産者も増えてきました。そこで、このコーナーでは次世代の生産者や「近畿親生会」の生産者に登場していただき、抱負などを語っていただきます。

次の50年に向けて

「菜食ファーム」は、組織化する前の「〇〇農園」時代から地域に根差し、地域の人に食べてもらえるものを作ることを大事にしており、1975年からエスコープ大阪(当時泉北生協)と産直関係を開始しました。有機肥料で栽培し、農薬使用は「大阪エコ農産物」栽培基準の2分の1以下の基準で野菜作りをしています。現在、16軒の農家が加入しており、そのうち6軒が親子2代でがんばっています。

就農する前は？

近岡 大学院で「美学」を学んでいました。普通に就職するのではおもしろくないと思います、おもしろいことを探していたら農業がバシッとハマりました。自分で作ったものを売って生活していくのがいいです。まったく何もないところからのスタート

今後の展望・考えていること

近岡 今の農業は異常気象への対応

中村 12年間教師をしていました。前職では家族の時間を持つことが難しかったです、就農しました。収入は安定しないけれど、時間はフレキシブルになり、家族との時間も取りながら、仕事もできるのがいいです。

トでしたが、行政の新規就農に対する手当が厚く、当初の収入が不安定な時期の不安も緩和されました。

大学院生の時は毎日が夏休みのような生活をしていましたが、今は朝起きて、食事をし、ちゃんとした人間になりました。

今野 9年間、農業高校の教師をしていました。いつかは継ごうと思っていました、生徒の成長に関わることができるとい職業にやりがいを感じていました。しかし、卒業生たちが農家になり、農の技術のレベルを彼らに追い抜かされてしまったと感じ、自分も現場で働こうと思いました。

が必要ですが、行政の新規就農に対する手当が厚く、当初の収入が不安定な時期の不安も緩和されました。

中村 気候の関係なのか、虫が増えたように思います。急な大雨も多く、畑に浸水してしまうこともありました。たくさんのお野菜が虫にやられてしまいました、そういうものも何とか収益にまわせるようにしたいと思っています。

これまで、産直関係を親世代が組合員とつくってきたように、これらの50年も次世代の皆さんといっしょにつくっていきます。

おたよりネット

「りっぶる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

248号4面

「楽しくて魅力的な農業を」を読んで

『上和田米』を登録していただいています。安心・安全でおいしいお米です。就農して下さる方が安心して生活が続けられますように願っています。農業は国の、人間の大事な産業です。

店舗地域 Y・Mさん

オーストラリアのスーパーでは…

オーストラリアに旅行に行き、人工香料・着色料の入っていないグミやゼリーが普通にスーパーで売られているのに驚きました。もちろんビニール袋はなく、紙袋が売られていました。

堺市街地地域 H・Yさん

Ripple おたよりネット

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き
252号(2024.1.29)

(ペンネームOK)

●地域名

●組合員コード

●お名前

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

https://s-osaka.seikatsuclub.coop/